

仕事の中に「感動」を！（32）

～ 単身赴任 ～

◇お客様からのメール

日曜日の朝のことでした。先日お会いしたばかりのお客様から、以下のようなメールを頂きました。

「今日は日帰り、大学時代の恩師のご退職祝賀会に参加してきました。今は、名古屋から京都に向かう新幹線の中です。（中略）
通路を挟んだ隣の席で、お母さんの膝の上で4歳くらいの男の子が、シクシク泣いています。横には10歳くらいのお兄ちゃんが頭をなでて慰めたり、話しかけたり、心配そうに見つめています。状況から、きっと、春休みを単身赴任のお父さんと過ごし、名古屋のホームで別れたばかりなのだと思います。お母さんにしがみつき、泣くのをこらえたり、思い出しては涙を流したり、見ていてとても切ないです。でも、何か家族の温かさを感じ、複雑な思いがします。みんな、精一杯生きているのだなあと思いました。」

私にも9歳になる娘と3歳になる息子がいます。この兄弟のお父さんやお母さんの気持ちを考えると、こちらまで切なくなるメールでした。

◇高校時代の友人と

同じ日の午後、お客様のご自宅のマンションを訪ねようと歩道を歩いているところでした。そのマンションの中から7歳くらいの男の子と4歳くらいの男の子が歩いてきました。道を譲って待っていたところ、後ろからその2人のお父さんがやって来られました。お辞儀をされて、私の前を通り過ぎようとしたところ、よく見ると高校時代の同級生でした。

「N、岡武や。久しぶりだな。」と声を掛けたところ、N君も驚いて、「おー岡武、久しぶり。ここのマンションに住んでるんだ。岡武は、今お父さんの仕事を手伝っているのだった？」と嬉しそうに伝えてくれました。お互いの近況を話していると、「今、単身赴任で東京にいる。」とのことでした。

後ろから、下の子の「お父さん。」との声がありました。大好きなお父さんと遊べる貴重な機会なのに、邪魔をしたら申し訳ないとの気持ちで、「ごめん。お父さんと遊んでおいで。」と、3人を見送りました。

◇単身赴任の方々へ

保険代理店の方では少ないと思いますが、全国各地に支店・支社のある保険会社の社員さんの場合、転勤は避けられませんし、ご家族がいらっしゃれば“単身赴任”を余儀なくされるケースも少なくないでしょう。実際、私の周囲にも、転勤に伴い“単身赴任”をされている社員さんがいらっしゃいます。その場合、家族と一緒に過ごせる時間は極めて限られていると思います。

でも離れて生活をされていても、電車の中の兄弟とお母さんや、友人の子どもたちのように、家族はお父さんと会える日をとて楽しみに待って下さっていることと存じます。そのことを心の支えに、お仕事も頑張れるのだろうと感じた一連の出来事でした。

（保険のOSS 所長 <http://www.oss-ins.jp>）